



上・右：東上町曳山見返し「鶏阿和勢稚游」

# 曳山 美と技

平成29年 9月30日(土)～  
平成30年 3月25日(日)

- 会 場：土蔵群「蔵回廊」
- 入館料：一般 510円 高大生 300円 中学生以下無料  
(曳山会館入館料が含まれています)
- 休館日：平成29年12月29日～平成30年1月3日



## ユネスコ無形文化遺産

国重要無形民俗文化財

## 城端神明宮祭の曳山行事

城端曳山会館 土蔵群 蔵回廊

〒939-1864 富山県南砺市城端579番地3

TEL (0763) 62-2165 FAX (0763) 62-2180

### 交通の案内

- JR
  - 東 京～新高岡 ……(北陸新幹線利用) ……2時間40分
  - 大 阪～新高岡 ……(特急サンダーバード・北陸新幹線利用) ……3時間00分
  - 名古屋～新高岡 ……(特急しらさぎ・北陸新幹線利用) ……3時間15分
  - 新高岡～城 端 ……50分
- 自動車
  - 東 京～福光I.C ……関越・上信越・北陸自動車道 ……7時間
  - 大 阪～福光I.C ……名神・北陸自動車道 ……4時間
  - 名古屋～福光I.C ……東海北陸自動車道 ……2時間20分
  - 名古屋～福光I.C ……名神・北陸自動車道 ……3時間20分
  - 福光I.C～城 端 ……5分





## 曳山 美と技

城端曳山祭は、毎年5月4日、5日に行われる城端神明宮の春の大祭で、江戸時代中期より続いており、300年の歴史を誇ります。享保4年(1719)に初めて曳山が完成し、同9年に神輿にお供して巡行を始めています。その後、庵唄や庵屋台が整備され優雅な祭となり、曳山や庵屋台も数度の改修をとおして次第に絢爛豪華なものになっていきました。

曳山には精緻な彫りと塗りが施されており、当時の技術の粋を集めて製作されたことがわかります。建造最初は規模が小さく装飾も簡素だった曳山でしたが、改修と増補を加える度に構造は複雑化、装飾は技巧的になり一層の華美性を増して、現在の形態へと至っています。中でも18世紀後半、城端の名工である7代小原治五右衛門稀雄や人形彫刻の荒木和助が、非常に精緻で繊細な塗りや人形彫刻を施し、美術工芸品としての曳山を確立させました。その技術は現在の曳山にも大切に残っており、目にすることができます。

このたびの企画展「曳山 美と技」では、曳山を構成する装飾品の一部である彫刻や車輪などを紹介いたします。現在の曳山の人形彫刻や地幕、幾度の改修・増補を経て、その過程の中で使われなくなった御面像や車輪、後補の際に採用されなかった彫刻などを展示し、曳山製作の一端を辿るとともに美術工芸品としての曳山を間近で感じ取っていただけることと思います。

また、城端曳山祭の過去のポスターも展示いたしますので、常設展示の曳山とあわせて城端曳山祭の気分に入り、その魅力を存分に感じていただければ幸いです。



東上町曳山見返し「鶏阿和勢稚遊」



西下町曳山見返し「竹に鶴」



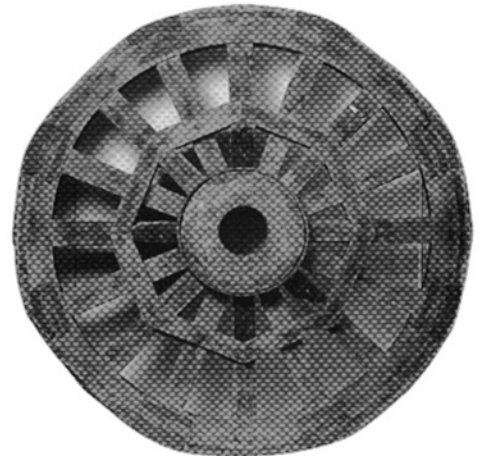
西上町曳山御神像「恵比須」初代御面像



「ミニ曳山」遊部屋8代 岡部宇一作



東下町曳山脇人形「逆立かるわざ」



旧西上町曳山車輪